

植木・盆栽を千葉から世界へ

～線虫対策により植木輸出をサポート～

千葉県は全国有数の植木産地であり、その高い技術から海外で人気が高まっています。ところが輸出量の増加とともに、検疫において根や土から線虫が検出されることにより輸出がストップする事態も増加するようになりました。当センターでは、その主な原因がオオハリセンチュウであることを突き止め、輸出前に退治する手法を開発しました。また、今後拡大が期待される EU 向けに輸送した場合を想定した実証試験を行い、効果を確認しました。

1 成果の内容

- (1) 主な輸出用樹種からどのような線虫※が検出されるか調査し、輸出で最も問題となるのはオオハリセンチュウであることを突き止めました。

※植物の根に寄生する、細長い糸状の土壌動物。体長 0.5～1.5mm。

- (2) 多くの薬剤からオオハリセンチュウに効果のある剤を選抜し、効果的な濃度や処理方法、処理時期を明らかにしました。

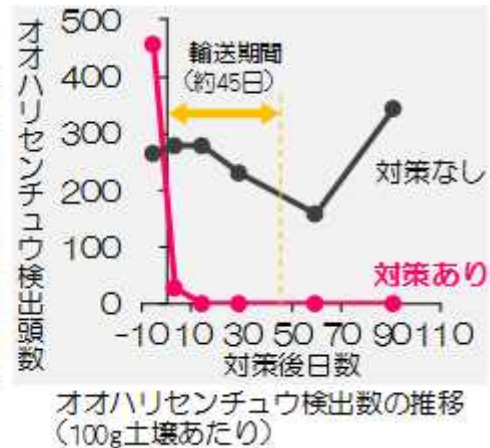
- (3) EU 向け輸出の際に用いられるコンテナと同じ環境下で、輸送期間（通常約 45 日）をおいた実証試験を行い、十分な効果が長期間持続することを確認しました。



オオハリセンチュウ



線虫対策処理の様子



オオハリセンチュウ検出数の推移 (100g土壌あたり)

2 普及の状況

県内では匝瑳地域を中心にイヌツゲ、キャラボク、イヌマキ等の植木・盆栽類を生産する植木輸出経営体 26 戸（輸出額 25.8 億円、平成 30 年）の他、全国の輸出産地（同 119.6 億円）のほとんど全てに普及しています。

3 問い合わせ先 千葉県農林総合研究センター

病理昆虫研究室 043-291-0151(代)

4 掲載年月 平成 30 年 1 月（令和 2 年 3 月更新）